

# 留学報告書

11013014 井上健太

留学が終わって振り返ってみると様々な事が思い出せます。まず、最初に留学準備に向けてたくさんの事をしなければいけませんでした。留学にかかるお金は、100万円という莫大な費用でした、僕は大学1年生の頃からアルバイトを頑張り留学費用を貯めていた分のお金と学校からの奨学金30万円で留学費用を払うことができました。留学に行くことを悩んでいるなら、少し無理してでも行くべきだと思います。2年生になってから本格的に留学準備が始まります。留学希望者は、最初に面接があります。その面接に受かった人は、次の留学準備をします。次にやることは、VISA取得のためのパソコン入力をしてアメリカ大使館に行く日の予約をします。このパソコン入力が大変でみんな苦勞してました、今となるという思い出の一つかなと思っています。アメリカ大使館は土日やっていないので、平日の授業ある日に行かないとだったので大変でした。友達と日にちを合わせて夜行バスに乗り東京に行ってきました、東京に朝早く着いてそのままアメリカ大使館に向かいました。アメリカ大使館は、厳重な警備体制だったので悪い事してないのに緊張しました。荷物検査などをしてから自分の番が来るのを待ちます。受付に行くと、指紋を取られたりパスポートや様々な書類を見せます。受付の人は外国人の方で英語を話してくると思ってかまえてましたが、バリバリ日本語喋ってきたので安心し笑いそうになりました。数週間するとVISAの付いたパスポートが送られてきます。これでアメリカに入国する権利を得たので、あとは何を持っていくかなどの準備です。平日の放課後にコース別で集まりガイダンスが数回あるので、その時に荷物の話などがあります。実際に行ってみて思うことは、荷物は絶対に帰りの方が重くなるので行く時は少なめにした方がいいとおもいました。一番荷物のなかで多くなるのは洋服です。服はアメリカのスーパーでも買うことが可能なので現地調達をおススメします。あとは日本の物を持って行きアメリカの人にあげると喜びますし、日本の文化を教えることも大切だと思います。ノースウェストには毎年NUIS生が行っているので、先輩が向こうの大学に残した様々な備品がおいてあります。ハンガーや洋服もあるので有効活用できます。僕は、留学の直前に荷物の準備をしてしまい大変だったのを覚えてるので早めに荷物を詰めることをお勧めします。夏休みに数回ガイダンスがあり、それが終わったらいよいよ出発です。今年は8月20～12月14日というスケジュールでした。当日は成田空港に各自集合だったので遅れないように早い時間の新幹線で行きました。全員が集合したら荷物の重さを計って預けます。空港に集合したみんなは様々な表情をしていました。これからする留学にワクワクしてる人、不安な人など様々な人がいました。留学と一緒に行く人の中には初めて話す人もいたので、これから仲良くなれるかなとか色々考えていました。そんなこと考えてるうちに出発のときがきて飛行機に乗り込み

ました。飛行機のフライト時間は全部で 14 時間と聞いて亜然としていました。飛行機内では、友達と話したり映画鑑賞をしたりと自由にすごしました。飛行機がアメリカに着くと、長時間のフライトでみんな疲れた顔をしていました。いよいよアメリカ生活の始まりです。

空港にはノースウェストの人が迎えに来てくれて、バスで学校まで向かいました。学校に着いたのは夜で、寮に着くとフランケンホールの人達が暖かくむかえてくれました。この時に初めてネイティブの人と会話しましたが、相手の言ってることは何となく理解できましたが、それに返答することができませんでした。自分の思っていることを英語で伝えることがどれだけ難しいのかを実感しました。初日は疲れていたのが泥のように眠りました。学校生活が始まって最初の週は、様々なオリエンテーション、学校案内、血液検査、提出書類、ご飯のこと、授業のことなど様々なアクティビティがありました。それが終わると授業のスタートです。僕達に授業をしてくれる先生は、主に 5 人います。まず 1 人目に紹介するのは、ミセスハーディーです。ハーディーはずっと前から ESL を担当している先生で優しくて、かわいいおばあちゃんみたいな先生です。二人目はミセス K です。本名がコンスタントポレスと長いので省略して K と呼んでいます。この先生は、歌とダンスが好きで休み時間に踊ったり歌ったりしているのでユーモア溢れる人です。3 人目はドクターフットです。この先生は、僕達の TOEIC の授業を担当していますが多忙な人なのでよく授業に遅れたり授業がなくなったりします。フットは、授業中にジョークを言ったりするので面白い先生です。4 人目はジャレットです。この先生はアメリカンカルチャーの授業をしてくれます。この授業は、アメリカの地理や歴史や文化などを学びますが話が難しいのでついていくのがやっとでした。5 人目は、アクティブティコーディネーターのベリンダです。ベリンダと関わるのは授業ではなくて、学校の活動の時です。あと分からないことがあれば助けてくれます。ベリンダの家に数回招かれてご飯を食べました、とても美味しかったです。僕たちは、主にこの 5 人に支えられながら留学生生活を過ごしていました。

授業以外の活動としては学校のイベントや **Conversation Partner** があります。**Conversation Partner** は週に 2 回 2 時間と決められた時間でパートナーと会話をしスピーキング力を鍛える活動です。僕のパートナーはタイラーという名前の大きな黒人の人でした、最初は少し怖いなと思っていましたが話してみると面白いし優しい人でした。毎回会話のお題が決められており、深い内容ばかりでした。政治や地球環境や社会など毎回答えるのが難しく大変でしたが、とても自分のためになる内容ばかりでした。分からない単語は辞書で調べるかタイラーに意味を聞いたりして何とか乗り切りました。タイラーは日本にとっても興味があって日本のアニメを見たり日本に行ってみたくてと言っていて、僕達は嬉しくなりました。日本のことを聞かれた時は僕らがタイラーに教えてあげるといふ風にお互いの文化を教えあう異文化交流をしました。タイラーとまた会えたらいいなと思っています。

そして学校では毎週様々なイベントが放課後や昼休みなど様々な時間に行われています。

夜に光るフリスビーを投げるゲーム、ダンスイベント、映画鑑賞、アメフト観戦、警察とピザを食べるイベント、爬虫類に触るイベント、ハロウィン、マジック、ライブ、コメディアン、お化け屋敷、など書ききれないくらいたくさんのイベントがあります。イベントは楽しいだけでなく、イベントで出会う人と友達になるといったメリットもあるのでイベントにはなるべく参加した方がいいと思いました。他には、授業の一環として動物園や博物館や買い物などにもいきます。動物園では、日本では見るできないような動物を見ることができて感動しました。博物館では様々な絵画や彫刻を直接見ることができます。実際に自分の目でみたり肌で感じることもある意味では学びの一部として考えることができ良い経験をしました。

アメリカには **Thanks giving day** と呼ばれる日本での正月みたいな週が 11 月にあります。日本と同じく親戚が集まって美味しい料理を食べながら話したり、テレビを見たりという感じで過ごします。僕たちは、この期間中授業がないし寮が閉まってしまうのでホームステイをします。僕たちがお世話になったのはパットさんとメンディーです。パットさんの職業はハンターなので他の一般家庭とは少し異なります。泊ってから 1 日目は、パットさんが仕事だったのでテレビを見たり勉強をして過ごしました。2 日目は親戚の家にお邪魔して **Thanks giving day** の美味しい料理を頂きました。ターキーを食べるのは初めてでしたが美味しかったです。ご飯の後は犬と遊んだり、親戚とお話をしたりと楽しい時間を過ごしました。3 日目は、パットさん指導のもとシューティングにチャレンジしました。パットさんの職業がハンターだったので実現したとても貴重な経験です。シューティングをした夜には、みんなでキャンプファイヤーをして酒を飲み語り合いをしました。**Thanks giving day** の間は普通の生活と離れて過ごしてかのような感覚でした。最後の日は、教会に行っからお昼にハンバーガー屋さんに行きました。パットさんには様々な所に連れてってもらったり色々な経験をさせてもらいました。自分たちの野生が磨かれた日々でした。**Thanks giving day** が終わると留学の残された時間も残り僅かとなります。残された時間で何をするか考えて毎日を大切にしなければと思いながら後半を過ごしました英語の勉強も頑張らないとだし、残された時間をアメリカの友達と過ごしたいななどやりたいことがたくさんありました。後半の日々も忙しく過ぎてあっという間に帰国の時が来た日は悲しくなりました。友達との別れもあるし、アメリカでやりたいことたくさんあるのに帰国しなきゃという悔しさがありません。この時日本に帰ったら、またお金を貯めて留学したいなと思いました。この 4 カ月間のアメリカでの生活は短く感じていて毎日色んな発見があって、ものすごい経験をすることができました。このアメリカでの生活は自分の人生において大きな財産にすることができて良かったです。また、アメリカでの経験を生かせるような職業に就けたらなと思っています。

